

立記念集会」が東京・四谷で約一五〇人が集まって開かれた。寺西氏は最高裁決定にもひるむことなく意気軒昂で、「被告を不当とした反対意見ですらも多数意見と同じ（公正らしき論）に依拠している」などと発言した。（二〇ページに関連記事）

自由で独立した裁判官を求める市民の会発足

仙台高裁の寺西和史裁判官に對する戒告決定が最高裁大法廷の多数意見によって追認されてから三週間あまりたった昨年二月二十六日、「寺西裁判官懲戒決定を許さない！〈自由で独立した裁判官を求める市民の会〉設

立記念集会」が東京・四谷で約一五〇人が集まって開かれた。寺西氏は最高裁決定にもひるむことなく意気軒昂で、「被告を不当とした反対意見ですらも多数意見と同じ（公正らしき論）に依拠している」などと発言した。（二〇ページに関連記事）

木佐茂男・北海道大学教授は、ドイツの裁判官の実情をスライドを用いて解説した。就業時間後は法廷が集会場に早変わりするなど、日本では考えられないほど自由で開放的なドイツ司法の状況に、会場からは感嘆の声があがった。

が、ドイツをうらやんでいても状況は変わらない。寺西事件を契機に、真に人権を守る、独立した裁判官を、最高裁でなく市民の手で育てなければならぬ。集会に続く「自由で独立した裁判官を求める市民の会」の設立総会では、安倍晴彦、佐野洋、清水鳩子の三氏を代表に選出した。そして、裁判によって人権保障が実現されるどころか、司法権により新たな人権侵害を起された具体的な経験が数多く語られ、状況の深刻さ今後

の活動の重要性を再認識した。市民の会入会の問い合わせは事務局03・5275・5377。（弁護士 田鎖麻衣子）

「学校側の処分は数日の停学なので効力がない」という問題提起に対し、参加者の一人は「高校生にタバコを販売していた現場を写真に撮り、警察に証拠として提出して販売をやめさせた」という実績を紹介し、「買わせない」大切さを訴えた。また会場では、飲食店に禁煙・分煙を訴える「お願いメッセージカード」が配布され、食事後に店に置いていくことが勧められた。タバコ問題を考える会・千葉では、禁煙・分煙を実施している「空気が美味しいお店のリスト／千葉版」の作成を検討している。

タバコ問題を考える会が千葉で発足

一九九四年一月九日、千葉県のJR船橋駅構内で三歳の幼児が他人の歩きタバコによって目に火傷を負うという事件があった。この事件を教訓として五年を経た今年一月九日、「タバコ問題を考える会・千葉」（中久木一乗代表、一五人）の発足記念シ

ンポジウムが船橋市内で行なわれた。発起人の一人の朝倉幹晴氏（安歩権と安全に歩ける街を求めるとして）は船橋市の「ポイ捨て防止条例」の徹底と歩行喫煙禁止の条例化を訴えた。また高校生校生の喫煙の激増、生徒の三分の二が喫煙している実態などを報告した。

先月末に東京・四谷で「自由で独立した裁判官を求める市民の会」の設立記念集会があり、さきに仙台高裁による戒告処分を最高裁も支持（といっても三分の一は反対）して大問題になった当の寺西和史判事補も出席・発言した。

日本が世界の中でも孤立的に「おくれた司法界」としてとり残されている。すなわちガラパゴス諸島の生物であり、生ける化石としてのシーラカンスということになる。

は「新ガイドライン」などととともに周辺に大迷惑をかける。ガラパゴス現象の背景として木佐氏が挙げたひとつに、六〇年安保世代あるいは大学闘争世代の違いがある。ドイツとか台湾などでは、反体制の闘士として当時活躍した学生らが、その思想のままで現在の主流あるいは体制側にはいつているというのだ。そうなれば体制も変らざるをえないではないか。

この集会での「ドイツの裁判官と日本の裁判官」と題する木佐茂男氏（北大教授）の講演は、非常に興味深い、というよりかなり衝撃度の強いものであった。スライドとともに紹介されるドイツの司法界の、日本とのあまりのの違いに驚かされたものの、それ以上にほとんど呆然とさせられたのは、木佐氏のいう「ガラパゴス現象」あるいは「シーラカンス現象」である。乱暴に要約すれば、それは次のような現象だ。

たどりだが、虚報やプライバシー暴露等によるこの無茶苦茶な加害も、司法の遅れとセットだからこそ可能なのであろう。

かくて我が祖国・日本は、ミッドウェー海戦から沖繩・広島・長崎にいたる歯止めなき「定向進化」を、チェック能力の欠如するままにまた繰返すのだろうか、自衛連合艦隊の新ガイドラインとともに。このチェック能力の欠如は、ドイツと違って敗戦でも変わらずに現在まで一貫している。だから日本には明治以来、真の意味での政権交替がなかった。

ガラパゴス現象

本多勝一

風速計

司法に限らず、行政であれジャーナリズムであれ教育であれ、西欧など「先進」諸国にくらべて日本のそれらが全く「後進」的であることは、よく指摘されてきた。ところが今では、西欧どころかアジアの中でさえ日本がとりのこされているというのだ。たとえば韓国や台湾の方が日本よりもずではつきりと民主的な司法制度に変わっているという。つまり

たどりだが、虚報やプライバシー暴露等によるこの無茶苦茶な加害も、司法の遅れとセットだからこそ可能なのであろう。

かくて我が祖国・日本は、ミッドウェー海戦から沖繩・広島・長崎にいたる歯止めなき「定向進化」を、チェック能力の欠如するままにまた繰返すのだろうか、自衛連合艦隊の新ガイドラインとともに。このチェック能力の欠如は、ドイツと違って敗戦でも変わらずに現在まで一貫している。だから日本には明治以来、真の意味での政権交替がなかった。